



2017年11月27日

報道関係者各位

慶應義塾大学

1972年の札幌オリンピック招致の決め手となった 高石真五郎のテープ音声を初公開

1972年に開催された札幌オリンピックは1966年ローマでのIOC（国際オリンピック委員会）総会で決定しました。その際、決め手になったのは、1901年に慶應義塾を卒業しIOC委員であった高石真五郎が、体調が優れない中で録音したテープ音声であったといわれています。慶應義塾福澤研究センターでは11月28日からの特別展「近代日本と慶應スポーツ—体育の目的を忘るゝ勿れ—」開催に当たり、そのテープが札幌オリンピックミュージアムに保管されていることをつきとめ、同ミュージアムの協力を得て、オープンリールの録音音声の初のデジタル化を行いました。

時あたかも11月22日、札幌市とJOC（日本オリンピック委員会）が、2026年の冬季五輪招致の立候補に向けた準備を正式に表明したところでもあり、特別展においても音声を公開することにいたしました。音声が一般に公開されるのは今回が初めてとなります。

1. IOC委員としての高石真五郎

- ・1939年にIOC委員に就任し、1967年に89歳で没するまでその責務を果たした。
- ・東京オリンピック招致、札幌オリンピックの招致に尽力。豊富な国際経験と、飄々とした風格は、IOC委員の信頼を集めた。東京オリンピック開催が決定したIOC総会の席上で「東京オリンピックを見るまでは死ねない」と発言すると、「タカインに長生きしてもらうために、東京オリンピック開催に反対しよう」とウィットに富んだ応答が出て爆笑を巻き起こし、支援の雰囲気広がったこともあった。
- ・札幌オリンピックが決まったのは、1966年4月のローマでのIOC総会。当初のムードは札幌不利であったが、投票に先立つIOC委員の討論において、東龍太郎IOC委員が託されていた高石の録音テープを披露したところ、大きな感銘を与え、ニュージーランドのアーサー・ポリット委員が「タカインにお見舞いの電報を打とう」と発言、ブランデー会長が「タカインに対する最上の見舞いは札幌に大会を与えることだ」と発言する一コマがあった。これで会場のムードは一変し、1回目の投票で札幌オリンピック開催が決定した。

2. 高石真五郎略歴

1878年～1967年。1893年慶應義塾に入学。1901年に大学部法律科を卒業後、大阪毎日新聞入社、1902年英国に留学、1909年までヨーロッパで活動。この間、日露講和後新聞記者として初めてのロシア入り、文豪トルストイの訪問取材をはじめ活躍。帰国後は外国通信部長、主筆を経て、1938年から1945年まで会長を務めた。1939年から死去までIOC委員。

3. 展覧会概要

日時：11月28日（火）～12月13日（水） 10:00～18:00 ※土日も開館。最終日は17:00閉館

テーマ：「近代日本と慶應スポーツ—体育の目的を忘るゝ勿れ—」

会場：慶應義塾大学三田キャンパス 東館8階ホール特設会場

入場料：無料。どなたでもご覧いただけます。

詳細：<http://www.uaa.keio.ac.jp/anniversary/exhibition.html>

※11月27日（月）16:00よりオープニングセレモニー・内覧会（一般非公開）を行います。ぜひご取材ください。

※ご取材の際には、事前に下記問い合わせ先までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、運動部、文化部等に送信しております。

【本発表資料のお問い合わせ先】慶應義塾広報室（並木） TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640
Email：m-koho@adst.keio.ac.jp <http://www.keio.ac.jp/>